



「折々の初心」

入善町立黒東小学校

校長 高澤 多加子

今年度のはじめに、尊敬する大先輩が黒東小学校を訪問された
ことがありました。その折に、私が今年度で退職ということで、「初

心に戻ってがんばります」と言うと、「折々の初心」という言葉があることを教えてください
ました。

「初心忘るべからず」よく耳にする言葉ですが、室町時代に能を大成させた世阿弥の言葉だ
そうです。一般的には、「初めの志を忘れてはならない」という意味で使われていますが、本
来の意味は、それと異なるそうです。世阿弥は、人生の中にいくつもの「初心」があると言
っています。それは、「若いときの初心」「人生の時々の初心」「老後の初心」です。ここで言う
「初心」とは自らの未熟さのことを意味するとのこと。つまり、「初心忘るべからず」と
は、それまで経験したことがないことに対して、自分の未熟さを受け入れながら、その新しい
事態に挑戦していく心構え、その姿のことを言っているそうです。その姿を忘れなければ、中
年になっても老年になっても、新しい試練に向かっていくことができるということです。大先
輩の奥の深い助言に感心するとともに、世阿弥の教えに心を動かされました。

振り返れば教職生活38年間、たくさんの出会いやたくさんの学び、そしてたくさんの失敗
もありました。問題と向き合う度に「ピンチをチャンスに」そして「チャンス・チャレンジ・
チェンジ」と自分自身に語りかけ、みんなにも言葉をかけながら乗り越えて来たように思いま
す。問題に対峙したときは、みんなで知恵を出し合いながらチームで取り組むように心掛けま
した。特に今年度は、先輩が教えてくださった「折々の初心」のことを心に留めて対応するよ
うにしました。学校運営においては、チャレンジの気持ちを忘れず、子供や教職員全ての人が
よさを発揮できるようにと願いながら取り組みました。また、新学習指導要領実施へ向けての
研修や準備にも同様の気持ちをもって取り組みました。来年度からは、いよいよ移行期に入り
ます。高い壁が待ちかまえていることとは思いますが、子供たちの健全な育成を目指し、将来
を見据えて、今どんな力を付けておく必要があるかを考え、取り組んでいかなければなりませ
ん。これからの社会は、さらに目まぐるしく変化することでしょう。しかし、どのような状況
でも、子供たちのことを一番に考え、新しい状況にチャレンジしていく教職員の皆様の力強い
様子が目に浮かびます。

入善町の学校教育に携わっておられる皆様の今後益々のご活躍と子供たちの健全な成長を
お祈りし、微力ながら心から応援しております。

入善町「学力向上プログラム」

～入善町立上青小学校の取組から～

自ら学び、共に高め合う子供の育成を目指して

本校は、昨年度から学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業拠点校として、Q-U調査等を活用
し、学級づくりを大切にしながら、「ねらいに迫る学習課題の設定」「書いて考える活動」「振り返りの場
の工夫」について授業研究を中心に研修を進めている。今年度は「学び合い」を通して、学力向上が図られ
るように取り組んだ。

(1) 学習形態を生かした「学び合い」の工夫

ペアやグループで話し合う場を設定し、少人数で思いや考えを伝え合うことで確かな理解につなげ
ることができた。

(2) 深い関わりを生む「学び合い」の工夫

① 必然性のある学びを引き出す単元構想

子供の実態から身に付けさせたい力を明らかにし、子供にとって
解決の必然性のある学習となるような単元構想を工夫したことで、
一人一人が目的意識をもって学習を進めた。

② 可視化することで成立する「学び合い」

一人一人の学習を共有できるようにしたワークシートは、子供の
考えの拠となった。どの子も自信をもって発言することができ、話し合いを活発にした。

③ 考えを広げるためのグループ構成の工夫

伝え合うグループを意図的に構成することは、自分と違う視点から捉えていることに気付いたり、
疑問が湧いて質問したりするなど、考えを広げることにつながった。

④ 温かい学級づくりが支える「学び合い」

普段から温かい関わりを意識した学級運営を行うことが、学んだことを全体の場で共有する際に、
友達のよさとして受け入れるなど「学び合い」に生きていた。

一人一授業の提案では、子供同士を「いつ」「何のために」「どのように」関わらせるかを具体的にイメ
ージすることができた。今後は、子供たちが課題に向かう切実感を高めたり、子供同士でつながりながら考
えを導き出したりするより深い「学び合い」になるように研修し、子供たちの学力向上につなげたい。



～ 内地留学報告 ～



「内地留学を終えて」

入善町立入善西中学校 教諭 若崎 勝



10月から3か月間、富山県総合教育センターで研修する機会をいただきました。研
修主題は、「生徒の意欲を引き出す人間関係づくりー生徒の自尊感情への働きかけを通
してー」です。

私は、これまでの教員生活において、生徒が安心して生き生きと生活できるように、
生徒に寄り添うことを心がけて取り組んできました。これまでの生徒との関わりも暗中

模索の中で進めてきました。指導が行き届かず悩むことが多くあった反面、生徒の笑顔や、楽しそうに活動する姿
に大きな喜びも感じてきました。

その中で近年、生徒は、よいことも悪いことも含めて自分の思いを表現しなくなってきているように思えます。
特に、1学年は、生徒にとっては生活環境が大きく変化することもあるためか、今まで以上にその傾向が強いよう
に見えます。その改善に向けて、様々な取組を試みてきましたが、経験の浅いことや、これまでの自分の固定観念
を変えることができず、どう指導すべきなのか困難を感じていました。そこで、生徒が安心して自己表現できるた
めの働きかけについて学びたいと思うようになりました。

今回の研修では、二つの大きな学びがありました。

一つは、教育相談部の業務についてです。毎日の教育相談や調査研究のある多忙な中で、所内外および部内にお
いて、研修を繰り返して徹底的に行っておられるということです。高い専門性の背景には、それだけの積み重ねがあ
るのだと改めて実感しました。

もう一つは、自尊感情は、高い低いではなく、安定が重要だということです。

自分のことを分かってくれている仲間には信頼を寄せ、その仲間のもとでは、安心して自己表現することができ
ます。仲間と適度に関わることでできる環境が、安定した自尊感情を育てていくものと考え、教師同士で共通理解
を図りながら慌てず時間と心をかけ、研修での学びを実践していきます。